

# 野口ようすけ

## ほっと通信 43号



### 人生100年高齢者が安心して豊かに生きるまちへ

人生100年時代を迎えたといわれております。交野市においても平均寿命は年々伸び、100歳を超えられる方も増えておられます。しかし多くの高齢者が100歳まで生きることには不安をかかえています。お金・健康・生きがい・終活など悩みはたえません。今後、行政として役割は更に重要になっていくことでしょう。私自身は少子化対策はもちろんのこと高齢化対策に今後、更に取り組んでいきたいと思っております。

今回は、一部ではありますが私の高齢化対策への取り組む考えについてお伝えいたします。

### ● 高齢者の方々から頂いた 声 (抜粋)

外出時のバスをもっと欲しい

一人暮らしだが台風などがきたときに家にいるのが怖い

家の前の道路がガタガタ。つまずきやすいので補修してほしい

近くのスーパーがなくなったので買い物が不便

将来、お墓を守ってくれる人がいない

デジタル化が進んでついていけない

主人がなくなったが、保険や年金など手続きがわからない

特殊詐欺や強盗などが増えているのが怖い

パッチワークのサークルに入りたい

駅までの歩道がない。歩道をつくってほしい

主人が入院しているが3か月ごとに転院しないとけない

青年の家にエレベーターをつけてほしい



## 生きがいづくり

文化やスポーツ活動は、市民に生きがいと喜びを与える重要な活動の一つです。コロナによって多くの活動がこの3年間中止となり、高齢者の方々から元気がなくなっていく姿をみてきました。活動が再開した今、文化・スポーツ・地域活動の更なる活性化を再度図る必要があります。また、スポーツにおいては、**高齢者でもできるスポーツ**の活性化を図ることが大事と考えます。



## 生活の足の確保

路線バスの充実が高齢化社会において重要な課題です。これまでのバス路線の考え方を変え、**「公共施設や買い物など暮らし中心のバス路線の拡充」**を進める必要があると考えます。幹線道路や京都・難波行きなどの遠方路線は民間事業者、バスの走れない空白地は市で対応していくことが望ましいと考えます。交野市では現在、地域公共交通会議を設置しておりますが、計画も含め早急を実施していくことを望みます。



## 「終活」は行政の重要な役割になる時代が来る

長男が家を継ぐなど、「家」という制度がなくなりつつある今、自分のことは自分でやらざるをえない時代となっております。今後は行政が終活も含め様々な役割を行うことになると考えます。



◇お亡くなりになられた際の手続きを簡潔化させる**「おくやみ窓口」**やその時のことを支援する**「終活窓口」**などを設置する必要があります。先進市では既に設けております。

◇賛否はともかく、日本人の意識が「家」から「個」に移り、お墓を設けても後を見てくれる人がいないなど、全国的に**墓じまい**されるかたも増えており、いまや、国民的課題となっております。市としては、今後、**樹木葬などの合葬墓**を準備（民間も含め）していく必要があると考えます。

## 青年の家のエレベーター設置

青年の家のエレベーター設置については、以前からも市民からの要望が上がっております。私自身もこれまで要望してきました。市は現在、設置に向けて取り組んでおり、私自身も設置に関してはもちろん賛成です。しかし、費用や時間、構造的な問題次第では、1階の教育委員会を3階に移動させ、3階の市民活動部屋を1階に移動させる方法も選択肢のひとつと考えます。

